

鳥出神社の鯨船行事

～天下の勇祭 鯨船の魅力と未来への継承～



日時:平成29年11月11日(土) 13時30分～16時30分(予定) ※パネル展示は11時～

場所:三重テラス 2階イベントスペース (東京都中央区日本橋室町2-4-1浮世小路千足屋ビル「YUITO ANNEX」)

入場:無料 事前申し込み制(先着順) ※当日受け付けは制限する場合があります。

【パネルディスカッション】

「富田の鯨船を語ろう」

- コーディネーター 武蔵野美術大学教授 神野 善治
- パネリスト

富田鯨船保存会連合会 副会長
 ・中島組神徳丸保存会 会長 加藤 正彦
 四日市市教育委員会 学芸員 堀越 光信

【基調講演】

「鯨船行事の謎と魅力」 神野 善治

「いさな舞う！四日市富田の鯨船行事
～過去と現状、そして未来～」 加藤 正彦

「鳥出神社の鯨船行事
～ユネスコ無形文化遺産登録と諸問題～」 堀越 光信



鳥出神社の鯨船行事

四日市市を中心とする三重県の北勢地方には、鯨船と称する豪華な装飾を施した船型の山車を練り回し、少年の扮する羽刺（はだし）役が銜（もり）で張りぼての鯨を突くという、陸上での模擬捕鯨を祭礼の風流の中に取り入れた行事が伝えられています。捕鯨を生業としていない地域において、鯨を大漁や豊穡の象徴として見立てた民俗行事です。

なかでも、四日市市富田地区に伝わる「鳥出神社の鯨船行事」は、江戸時代後期に創始されたものと考えられ、北島組（「神社丸」）、中島組（「神徳丸」）、南島組（「感應丸」）、古川町（「権現丸」）の4組がそれぞれに意匠装飾を凝らした鯨船山車を勇壮に練り動かして、鯨を仕留める様は、まさに荒海での鯨との死闘を想起させる見所です。

平成9年、国指定重要無形民俗文化財に指定され、現在も大切に保存継承されており、この行事を含む全国33件の国指定重要無形民俗文化財で構成される「山・鉦・屋台行事」が、平成28年12月に一括してユネスコ無形文化遺産に登録されました。

<イベント概要>

11:00～ パネル展示

13:30～ シンポジウム（基調講演およびパネルディスカッション）※事前申し込み制

三重テラス

MIE TERRACE

- ◆住所
東京都中央区日本橋室町2-4-1
浮世小路千疋屋ビル「YUITO ANNEX」
- ◆TEL（10:00～20:00）
イベント・観光案内 03-5542-1035
- ◆交通アクセス
東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅直結（A9出口）
JR総武線快速「新日本橋」駅直結（A6番出口）



<シンポジウムのお申し込み方法> 電話、もしくは下記の欄に記入してFAX、またはメールでお申し込みください。

氏名	お住まい	都・道・府・県	区・市
電話番号 (緊急連絡先)	メールアドレス		

お申し込み先：四日市市東京事務所 (TEL:03-3263-3038 FAX:03-3263-2070 E-mail:tokyojimusyo@city.yokkaichi.mie.jp)